

事例

デジタル技術を活用した魚をおろす疑似体験
(第6回食育活動表彰 消費・安全局長賞受賞)あいなんちょう
愛南町ぎょしょく普及推進協議会（愛媛県）

愛南町ぎょしょく普及推進協議会は、魚の生産から消費、生活文化までを含む幅広い内容を広めるために、町全体で7つの「ぎょしょく教育」を実施しています。ぎょしょく教育とは、「魚食」へ到達することを目指し、魚に触れる「魚触」、魚の生態や栄養を学ぶ「魚色」、獲る漁業を学ぶ「魚職」、育てる漁業を学ぶ「魚殖」、伝統的な魚文化を学ぶ「魚飾」、魚を取り巻く環境を学ぶ「魚植」の一連の取組です。本取組は、平成17（2005）年度に開始し、平成22（2010）年度には町内の全ての保育所、小・中学校で実施しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大前は、出前授業、養殖現場の見学、調理実習を中心に活動してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2（2020）年度は遠隔授業、魚のおろし方や調理に関する動画の配信を開始しました。さらに、令和3（2021）年度には、デジタルトランスフォーメーション（DX）のひとつとして、魚の三枚おろしを疑似体験できるアプリを制作しました。愛南町内の小中学校では、一人に一台の情報端末が導入されており、動画やアプリを効果的に使用することができます。アプリは、魚をおろした回数や時間によって、習熟度を自動で判定するようになっているため、一人で何回も疑似体験を行うことが可能です。子供たちの「本物の鯛をおろしてみたい」という興味を引き出したり、実物の魚をおろす体験へのハードルを下げたりすることで、魚を調理したり、食べたりすることへの関心を高めています。

アプリは、時間や場所の制約を受けることがなく、学校等の団体以外でも活用できます。今後も、社会環境の変化等に合わせて、ぎょしょく教育の普及を行うとともに、楽しみながら食育を学べる活動を進めていきます。



魚に触れる魚触



疑似体験アプリ



情報端末で三枚おろし体験